

経営比較分析表

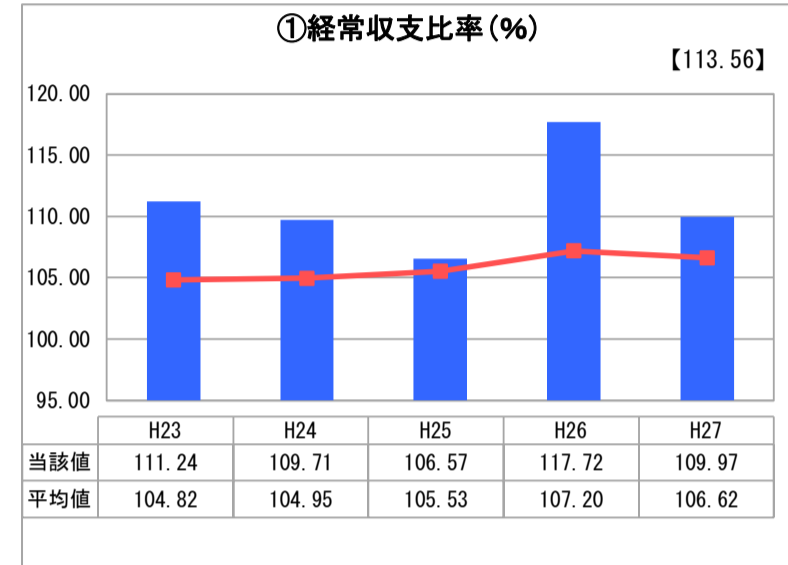
長野県 立科町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	83.39	99.99	3,434

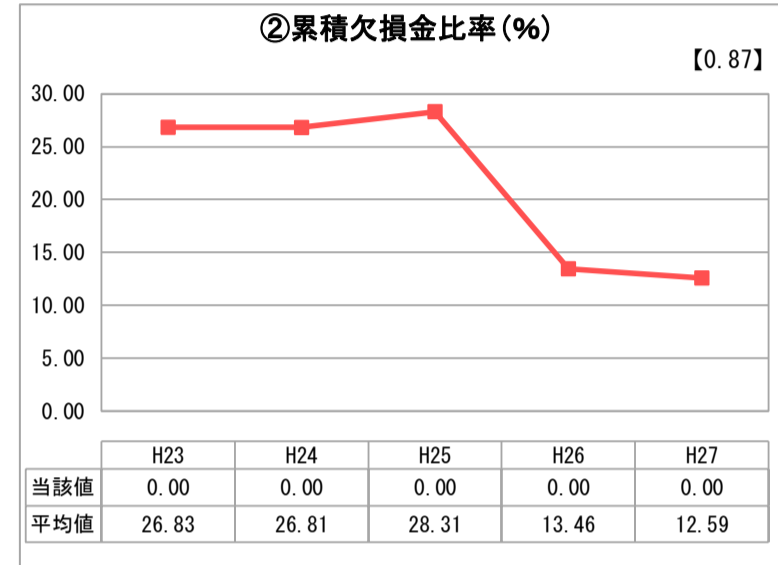
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,594	66.87	113.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,719	48.25	159.98

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

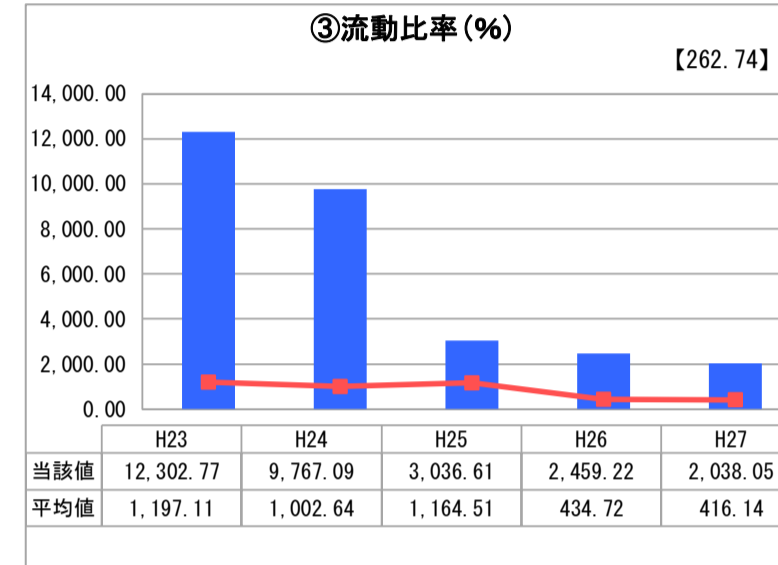
1. 経営の健全性・効率性



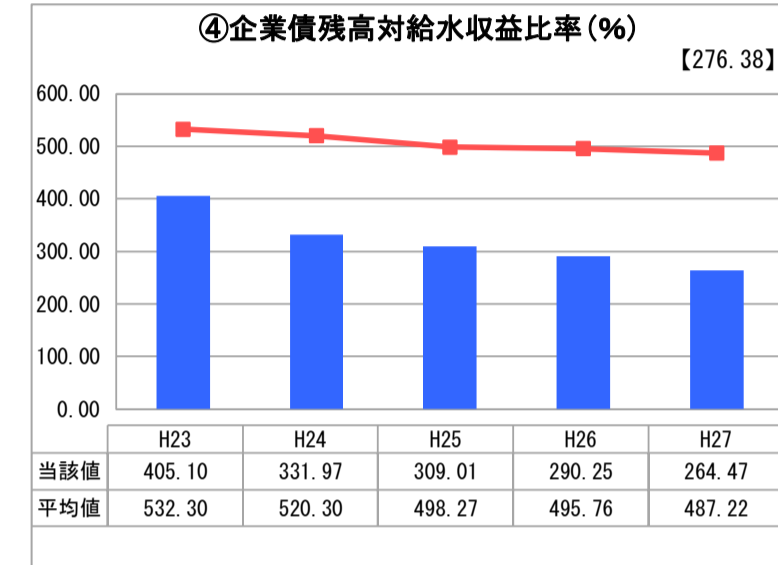
「経常損益」



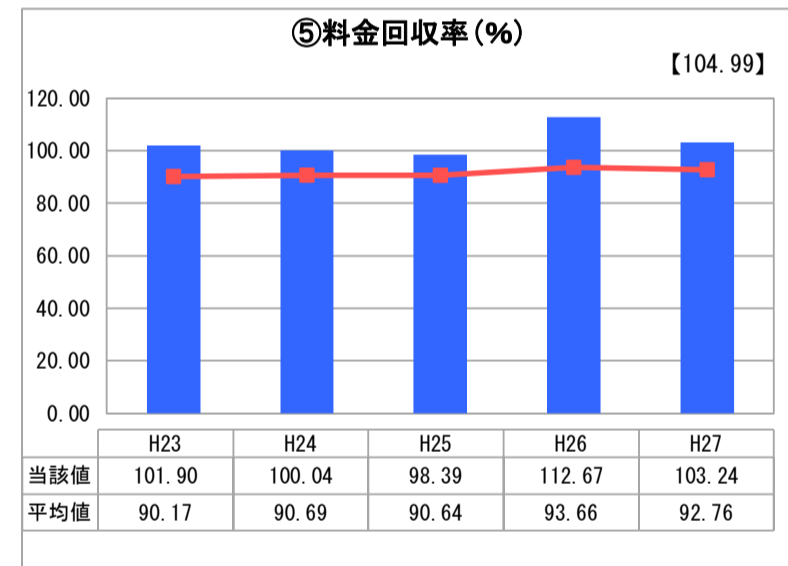
「累積欠損」



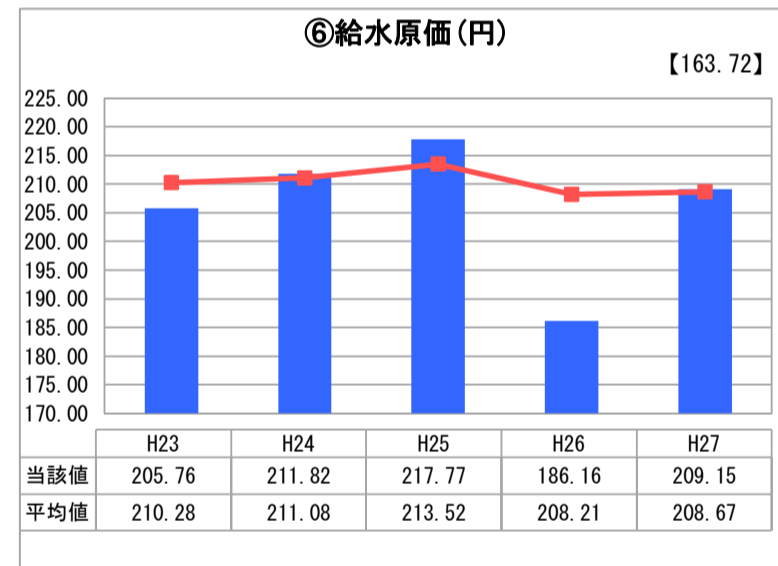
「支払能力」



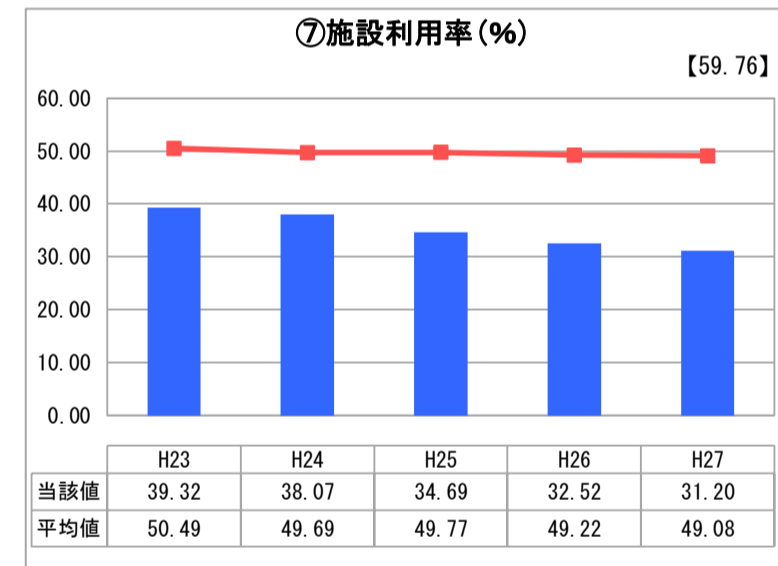
「債務残高」



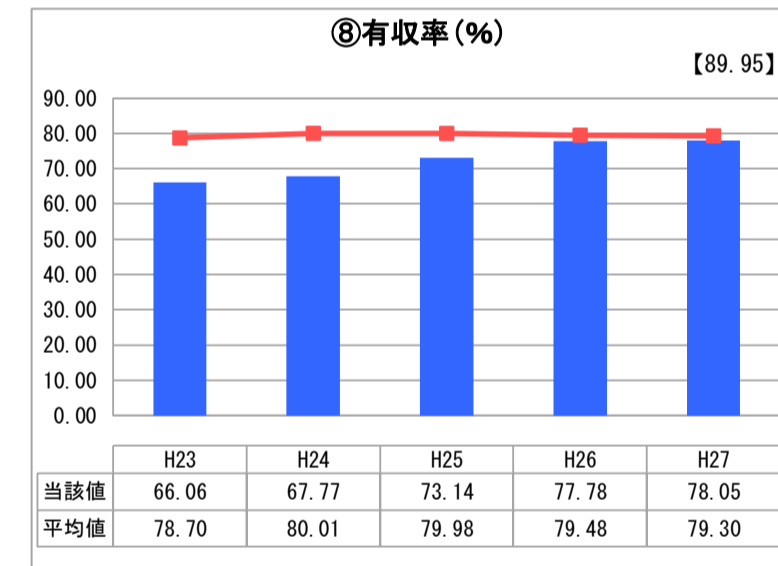
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

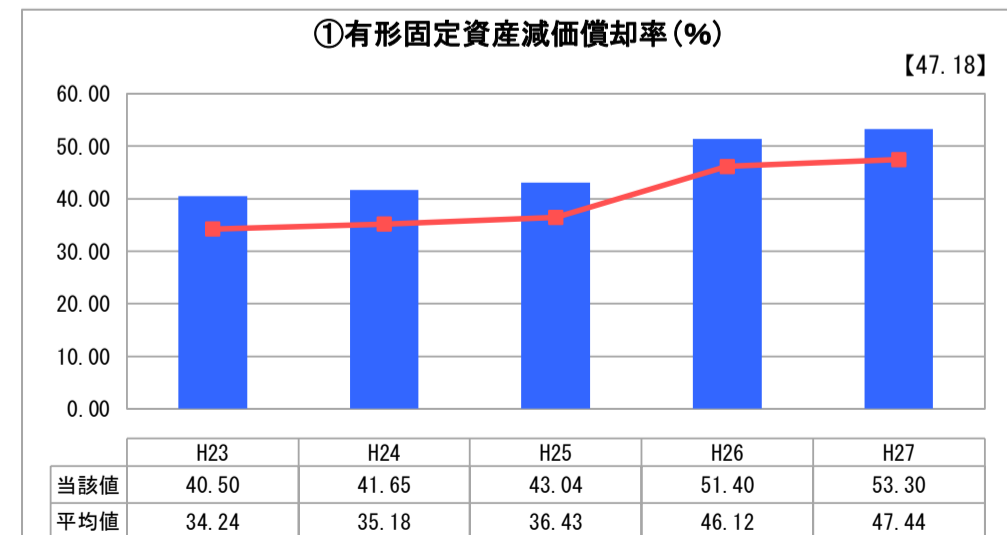


「施設の効率性」

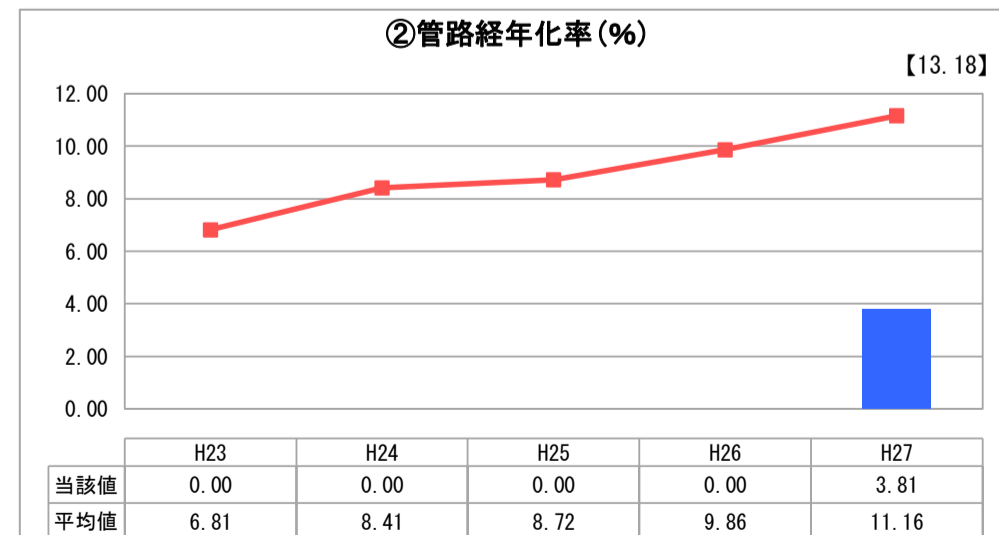


「供給した配水量の効率性」

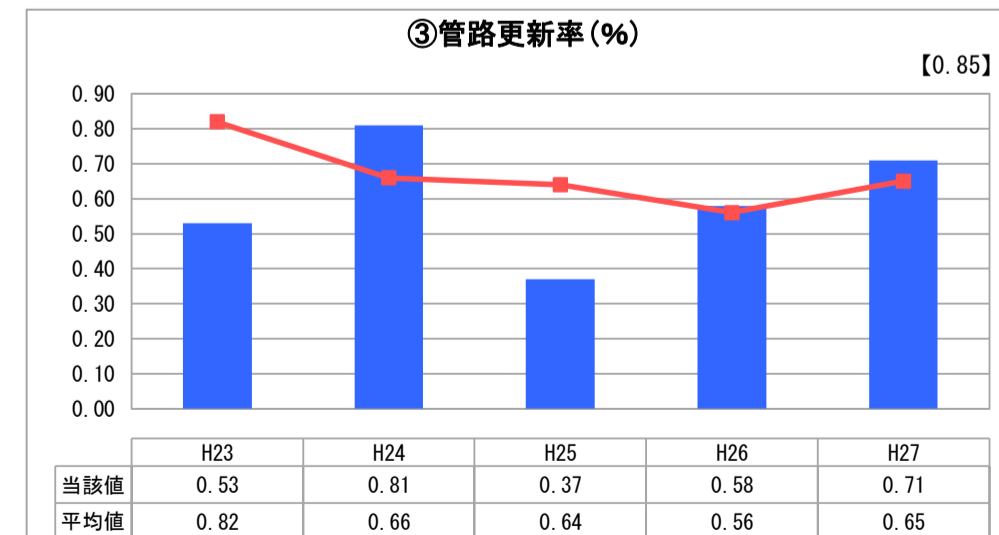
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超えた健全な水準で推移していますが、人口減少等により給水収益は減少傾向で収益の増加は見込めないため、今後も費用削減に努めます。

② 流動比率は類似団体平均値と比較して上回っており1年以内に支払うべき債務に対して、現金預金等を十分保有しています。

③ 企業債残高対給水収益比率は企業債の償還により年々減少していますが、今後は施設等の更新を行いつつ企業債借入は最低限に抑えていきます。

④ 料金回収率は100%を超えています、給水収益は減少傾向にありますので、今後も経費削減に努めます。

⑤ 給水原価は類似団体平均値と比較して上回っていますが、今後は施設等の更新により給水原価の上昇が見込まれますが、経営の効率化により給水原価を低く抑えるよう努めます。

⑥ 施設利用率は類似団体平均値と比較して低く、人口減少や社会情勢の変化により水道使用量の減少に伴い、年々低下傾向にあるため、施設規模等を検討する必要があります。

⑦ 有収率は類似団体より低いが、今後も継続的に漏水調査や計画的に管路更新を行い有収率の向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似団体平均値より上回り増加傾向にあり、平成26年度は53%を占めるまでになっています。

② 管路経年化率は類似団体平均値より下回っている。

③ 管路更新率は、平成26年度以降、類似団体平均値を上回っているが年度ごとに不安定である。今後は計画的な更新を実施する必要があります。

全体総括

1. 経営の健全性・効率性の分析から、現状は健全経営を維持している状態にあると言えます。しかし、今後の人口減少に伴う給水収益の減少や施設の老朽化に伴う更新費用や修繕費用の増加が見込まれることから、継続して経費削減を進めるとともに、施設利用率を向上させるために施設規模等の適正化を検討する必要があります。

2. 老朽化の状況の分析から、施設の老朽化度合いが高いことから、今後更新計画や投資計画について検討する必要があります。

平成29年度からは、水道事業経営戦略を基に投資の合理化や財源の見直し等を行い、経営基盤の強化に努めていきます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。